

News

Vol. 19

2023 / February

ご自由にお持ちください

Contents

2 事業管理者挨拶

阿蘇市病院事業管理者

阿蘇医療センター 院長 甲斐 豊

4 心臓リハビリテーション指導士取得者の紹介 骨折リエゾンサービス -FLS-チームの活動紹介 骨粗鬆症マネージャー取得者の紹介

5 診療体制

2023年1月からの診療体制

3 新任医師の紹介

常勤医師1名が新たに着任致しました

「もの忘れ外来」を開設しました

6-8 各部門における取組み

第5回阿蘇医療センター地域連携の会を開催

看護キャリア支援事業に参加

病院災害対策本部机上訓練・阿蘇火山防災物資輸送実働訓練

阿蘇医療センター医師及び看護師等派遣に関する協定書を締結

国立阿蘇青少年交流の家で研修会を開催

日本医療機能評価機構による病院機能評価の認定更新



事業管理者挨拶

阿蘇市病院事業管理者
阿蘇医療センター 院長

甲 斐 豊



多職種・異業種間の多様かつ横断的連携のあり方を見出して

このところ毎年のように「今年こそは新型コロナの終息を」と願っていますが、残念ながら年末以降の第8波拡大を引きずり、加えてインフルエンザの増加にも注視しながらの年明けになりました。県内でも、高齢者を除いて重症者は減少しているとはいえ、オミクロン株の派生型ウイルスの出現とともに感染者数は増加傾向にあります。

昨秋来、国内では感染者の全数把握の簡略化、訪日観光客のツアー解禁、国内旅行支援の開始、様々なイベントの通常開催等々、感染対策はウィズコロナ向けに緩和され、更には、感染症法上の分類の第5類への見直しの動きもあります。

対して医療現場だけは相変わらず機能を制限した一般医療と並行して、陽性患者の受入れ、発熱外来、ワクチン接種、高齢者施設支援等々の対応に追われているのが実状で、ゼロコロナを維持することが求められています。医療関係者個々の生活背景を慮りますと、こうした近時の社会状況とのギャップに少々納得がいかない部分も残ります。

さて、医療に関する主な政策課題では、▶地域医療構想 ▶医師の働き方改革 ▶医療分野のデジタル化 ▶第8次医療計画（新興感染症への対応）等があげられます。令和4年度内に確定する事項あるいは令和5年度には方向性が具体化してくるものがありま

すが、いずれも医療機関の規模・機能によって運営に影響を及ぼすものを内包しています。限られた医療資源の範囲でこれらの諸課題に対応していく必要があります。

地域医療の面に関しては、長期に及ぶ新型コロナ下で改めて「連携」の重要性も再認識させられました。当院は、がん診療の緩和ケアチームをはじめ、認知症・心不全・骨折予防等の多職種チームが活動を展開していますが、超高齢者社会では在宅医療支援の充実化と併せ、病診薬看介等に係る施設間・救急隊・行政との協働の必要性が高まっています。地域の特性・需要に照らし、危機発生時を含めた多職種・異業種間の多様かつ横断的連携のあり方を見出していこうと考えています。

本年も地域の拠点病院・感染症指定医療機関として責務を果たしてまいります。

より一層のご支援とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

※この本文は、令和5年1月初旬に執筆しており、本誌発行時の状況と記述内容が一部相違しています。

ご了承願います。

NEW DOCTOR / 新任医師紹介



ふるかわ
古川 ちひろ

小児科

常勤医師

学会・資格 ■ 小児科一般
日本小児科学会

外来診療予定 ■ 毎週月・木曜日
■ 火曜日
(橋山医師または古川医師)

message

令和4年10月から小児科で勤務しております医師5年目の古川と申します。
人吉市出身ですが、これまで小児科医としては、熊本市、八代市、玉名市など様々な地域の中核病院で勤務して参りました。阿蘇医療センターは、研修医時代に3ヶ月研修させていただいた病院で、この地域の方々には医師としての土台を育てていただいた御恩があります。阿蘇市は当県を代表する観光地であり、この自然豊かで素敵な場所で、子どもたちやそのご家族が、笑顔で安心して暮らせるよう、微力ながら精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

もの忘れ外来を開設

令和4年10月から、「もの忘れ外来」を開設しました。

当外来は、認知症の予兆が見受けられる方の診療や相談などに、専門の医師・認知症看護認定看護師が対応しております。日常生活での
▶物事を思い出せない ▶なくすものが増え探す行動が多くなった ▶約束した日を間違える、などの状態が加齢によるものか、病因によるかを診断し、それをふまえて対策を患者様やご家族と一緒に考えていく専門外来です。

当院では、その中でも認知症の前段階にあるMCI（軽度認知障害）の状態の方を早期に発見し、生活指導などで進行予防をしていくことを目的としています。

もの忘れの症状は、認知症以外にも腎機能低下や電解質の異常、甲状腺の異常などの内科的疾患でも起こります。脳疾患（脳梗塞や脳出血など）でも起こることがあります。専門的な検査を行うことで、もの忘れの原因を見つけることができます。

診療日・診療時間

毎月第1・3・5の金曜日13時～17時 ※要予約

担当医師

脳神経外科 甲斐 豊

脳神経外科専門医／脳血管内治療専門医／脳卒中専門医／頭痛専門医／プライマリケア認定医／認知症サポート医

担当看護師

認知症看護認定看護師 佐藤 明日香

まずは
医師に相談して下さい

進行予防が大事！

健常者

MCI

認知症

回復率14～44%

移行率 1年10%
5年40%

新たに取得した「心臓リハビリテーション指導士」を紹介！

令和4年8月に行われた心臓リハビリテーション指導士試験で、スタッフ2名（循環器内科医師1名、理学療法士1名）が合格し資格を取得しました。

心臓リハビリテーションは、運動療法のみではなく、食事療法や内服管理、生活習慣、禁煙指導を含めた包括的リハビリテーションを目指すべきであり、そのためには、医療専門職間の連携や共同作業（チーム医療）が必要です。心臓リハビリテーション指導士は、包括的心臓リハビリテーションを通じて循環器疾患の治療ならびに再発予防とADL、QOL向上を目指すことを目的としています。

当院では令和4年10月から心臓リハビリテーションの施設基準が心大血管リハビリテーションⅡから

心臓リハビリテーション指導士

循環器内科医師 石田 俊史

理学療法士 升水 亮一

心大血管リハビリテーションⅠとなり、更に充実したリハビリテーションの提供、介入が可能な体制を整備しました。現在は入院加療の患者様の対応がほとんどですが、今後は外来心臓リハビリテーションにも取り組み、退院後の運動療法の介入の拡大に努めていきたいと思っております。

骨折リエゾンサービス Fracture Liaison Service チームの活動

骨粗鬆症は日本人の約8人に1人が発症しているとされている疾患です。骨粗鬆症が原因の骨折はADLが低下し、介護が必要になり経済的負担が増えるなど、日常生活の維持に困難をもたらす疾患です。また、脳血管や循環器疾患と異なり、症状が出ず実感しづらい疾患でもあります。

当院の骨粗鬆症患者は2年半で270名近くになっていますが、令和3年8月に設置した骨折リエゾンサービス（FLS: Fracture Liaison Service）チーム

の活動効果もあり、以前と比較して再骨折率の著明な改善が認められています。

FLSチームは、骨粗鬆症マネージャーの資格を取得した4名のスタッフを中心に院内の多職種と連携して、骨折予防に関する活動を行っています。また、熊本県では当院が唯一と思われますが、歯科医師とともに連携した加療も行っております。

骨粗鬆症マネージャー資格を取得しました！

当院のFLSチームは令和3年8月から活動しておりますが、令和4年10月に行われた第8回骨粗鬆症マネージャー認定試験で、スタッフ4名（看護師1名、理学療法士3名）が合格し資格を取得しました。

FLSチームは、医師、歯科医師、薬剤師、看護師、理学療法士、管理栄養士、社会福祉士の多職種で編成し活動を展開しております。その中で骨粗鬆症マネージャーは、各職種の専門的な知識・スキルを幅広く習得・理解し、骨粗鬆症の啓発・予防・再骨折予防・円滑な治療を行うためのサポート役を担っています。

FLSチームは活動開始以降、約100名の患者に対して介入し再骨折率の改善に成果を上げています。また、昨年8月には腰椎・大腿骨での骨密度測定（DEXA法）が可能な装置が導入されるなど、より

骨粗鬆症マネージャー

看護師 志賀 真紀

理学療法士 池田 隆

理学療法士 安陵 暢浩

理学療法士 津田 輝史朗

高精度な検査体制も整えております。

高齢化率の高い阿蘇圏域では、今後も相当数の骨粗鬆症患者が想定されることから、チーム活動を通して、圏域の医科・歯科の医療機関との連携を推進しつつ、治療の開始率及び継続率の向上を目指し、二次骨折の予防等に取り組むこととしています。

外来診察担当医表 ■一部の専門外来を除いて午前中のみ診療になります。緊急時は救急外来で対応いたします。
■当院は、「予約診療」(原則) です。電話予約の上の来院をお願いします。

一般外来 午前 受付時間 8:30～11:30 (診療時間 9:00～12:00) 令和5年1月1日現在
午後 受付時間 13:00～16:30 (診療時間 14:00～17:00) (一は休診)

診療科		月	火	水	木	金	土
内科	午前	湯本 信也 平賀 円	平賀 円	湯本 信也 春木 紗良	平賀 円	湯本 信也 春木 紗良	—
	午後	—	湯本 信也 (在宅酸素療法外来のみ)	—	—	—	—
脳神経外科	午前	甲斐 豊	甲斐 豊	—	甲斐 豊 中嶋 直也 〔熊大病院循環器内科〕	甲斐 豊	—
循環器内科	午前	石田 俊史	石田 俊史	宮本 信三	宮本 信三	—	—
	午後	石田 俊史 (睡眠時無呼吸症候群外来のみ 14:00～16:00 ※1)	—	—	—	—	—
脳神経内科	午前	—	—	松原崇一朗 ※4 〔熊大病院脳神経内科〕	—	—	—
	午後	—	—	松原崇一朗 ※4 〔熊大病院脳神経内科〕	—	—	—
整形外科	午前	坂本 圭	坂本 圭	坂本 圭	湯上 正樹 〔熊大病院整形外科〕	—	—
	午後	—	—	—	湯上 正樹 〔熊大病院整形外科〕	—	—
リハビリ テーション科	午前	坂本 圭	坂本 圭	坂本 圭	湯上 正樹 〔熊大病院整形外科〕	甲斐 豊	—
	午後	—	—	—	湯上 正樹 〔熊大病院整形外科〕	—	—
消化器外科	午前	—	坂本 悠樹 近本 亮 (第2水曜の前日) 〔熊大病院消化器外科〕	近本 亮 (第2水曜を除く) 〔熊大病院消化器外科〕	坂本 悠樹	—	—
リウマチ 膠原病内科	午前	—	—	中村 正 (第4水曜) 〔桜十字病院〕	—	—	—
	午後	—	—	中村 正 (第4水曜) 〔桜十字病院〕	—	—	—
乳腺 内分泌外科	午前	岩瀬 弘敬 (月2回指定日)	—	—	—	—	—
	午後	岩瀬 弘敬 (～15:00 月2回指定日)	—	—	—	—	—
糖尿病・代謝 ・内分泌内科	午前	—	—	—	八木 喜崇 〔熊大病院代謝内科〕	井形 元維 〔熊大病院代謝内科〕	—
	午後	—	—	—	八木 喜崇 〔熊大病院代謝内科〕	井形 元維 〔熊大病院代謝内科〕	—
血液内科	午後	宮川 寿一 (第2月曜)	—	—	—	—	—
腫瘍内科	午前	—	—	—	境 健爾 (第3木曜) 〔熊本医療センター〕	—	—
消化器内科	午前	具嶋 亮介 (11:00～) 〔熊大病院消化器内科〕	—	吉成 元宏 (11:00～) 〔熊大病院消化器内科〕	—	楢原 哲史 (肝疾患) 〔熊大病院消化器内科〕	—
	午後	具嶋 亮介 (～15:00) 〔熊大病院消化器内科〕	—	吉成 元宏 (～15:00) 〔熊大病院消化器内科〕	—	楢原 哲史 (肝疾患) 〔熊大病院消化器内科〕	—
呼吸器内科	午前	—	坂田 晋也 (9:30～) 〔熊大病院呼吸器内科〕	—	—	城臺 孝之 〔熊大病院呼吸器内科〕	—
耳鼻咽喉科	午前	—	—	—	熊大病院担当医	—	—
腎臓内科	午前	—	—	—	—	秦 雄介 (第4週を除く) (新患11:00～)	—
	午後	—	—	—	—	秦 雄介 (第4週を除く) 〔熊大病院腎臓内科〕 (14:00～15:00)	—
婦人科	午前	—	—	—	—	片淵 秀隆 (第2・4)	—
	午後	—	—	—	—	片淵 秀隆 (第2・4)	—
皮膚科	午前	—	—	栗山 春香	—	—	—
	午後	—	—	栗山 春香 (～16:00)	—	—	—
歯科口腔外科	午前	—	高宗 康隆 ※2	高宗 康隆(再診のみ)	—	高宗 康隆 ※2	—
	午後	—	高宗 康隆 ※2	—	—	高宗 康隆 ※2	—
人工透析	午前	湯本 信也	湯本 信也	湯本 信也	湯本 信也	湯本 信也 (第4週) 秦 雄介 (第4週を除く) 〔熊大病院腎臓内科〕	伊達 亮佑 (第1土曜) 藤本 大介 (第2土曜) 松永 英士 (第3土曜) 栗原 孝成 (第4土曜) 〔熊大病院〕 湯本 信也 (第5土曜)

総合診療	午前	春木 紗良	平賀 円	井 清司	石田 俊史	佐土原 道人
------	----	-------	------	------	-------	--------

※ご来院時に患者さんの症状に対応できる診療科の診療が行われていない場合にご案内致します。

小児外来 午前 受付時間 8:30～11:30 (診療時間 9:00～12:00)
午後 受付時間 13:00～18:00 (診療時間 14:00～18:15)

診療科		月	火	水	木	金
小児科	午前	古川 ちひろ	橋山もしくは古川	橋山 元浩	古川 ちひろ	橋山 元浩
	午後	古川 ちひろ	橋山もしくは古川	橋山 元浩	古川 ちひろ	橋山 元浩
小児科 専門外来	午前	—	—	上土井 貴子 (第2・4水曜) ※3	—	—
	午後	—	—	上土井 貴子 (第2・4水曜) ※3	—	—

※1…受付時間 13:00～15:30 (診療時間 14:00～16:00)
※2…予約制です。また、紹介状 (かかりつけの歯科医院等から発行していただく。) をお持ちでない患者さんは受診できません。
※3…原則、小学生までの受入れ。ただし、紹介状が有る場合は中学生まで受入れ。
※4…予約制です。前日 17:15 までに予約の電話をお願い致します。

第5回阿蘇医療センター地域連携の会を開催

令和4年10月19日（水）阿蘇市内のホテルにて「第5回阿蘇医療センター地域連携の会」を開催しました。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、感染対策を行いながらの開催となりましたが、阿蘇圏域の関係機関から多数の参加をいただき有意義な会となりました。

今回は、「心不全治療に対する病診連携」をテーマに当院の循環器内科部長兼地域医療連携部長 宮本信三医師による心不全・ハートノートの取り組みについて講演を行いました。また席上、当院常勤医師・歯科医師の紹介を行いました。

今後も地域の医療連携・協働を図るため、連携の会を継続的に開催することを予定しております。



看護職キャリア支援事業に参加

同事業は、熊本県内の地域医療拠点病院の看護職員を対象に、熊本大学病院が実施する院内教育研修の受入や病院間による相互研修等により看護職のキャリア形成を支援することを目的として、令和4年10月から始めました。

熊本大学病院では看護業務と並行して研修を受け高度な医療技術の習得を目指し、地域の拠点病院では回復期・慢性期の看護など地域医療に関する分野を経験することになります。相互の研修期間は令和6年3月までとなっています。

当事業には、当院から山口沙織看護師が、熊本大学病院から白井智佳看護師が参加しています。



病院災害対策本部机上訓練・阿蘇火山防災物資輸送実働訓練



当院では熊本地震での対応・反省をふまえ、災害対策マニュアルの改訂やBCP策定の整備を図ってきたところです。

今回、令和4年11月3日（木）に行われた阿蘇火山防災訓練に合わせて、改訂後のマニュアルやBCPの確認・検証を目的に、発生時の初期対応／対策本部の設置／情報収集等の机上訓練のほか、自衛隊ヘリの出動協力も得た物資輸送の実働訓練を実施しました。

訓練は、各部署から職員が参加し各役割に基づいて、阿蘇山噴火による発災入電→救急外来対応→災害対策本部の設置→当院DMAT出動→自衛隊ヘリと連携した物資輸送の流れで行われ、結果について相互に再検証し新たな改善点を見出し、今後のマニュアル改訂等に反映させることとしております。



阿蘇広域行政事務組合消防本部と「阿蘇医療センター医師及び看護師等派遣に関する協定書」を締結

令和4年11月17日（木）に、当院と阿蘇広域行政事務組合消防本部との間で、「阿蘇医療センター医師及び看護師等派遣に関する協定書」が締結されました。

協定は、事故（道路交通事故・列車事故・航空機事故等）発生時、または現場活動等に出場し迅速な救命処置を行うことにより、傷病者の救命率の向上及び後遺症の軽減等を図ることを目的としています。



国立阿蘇青少年交流の家で研修会を開催

令和4年12月7日（水）に国立阿蘇青少年交流の家の職員18名を対象に、当院の感染管理認定看護師が講師となって、「職員の感染対策に対する意識及び対応力の向上」をテーマに研修会が開催されました。

講義内容は、▶感染防止対策 ▶ノロウイルス対応 ▶嘔吐対応 ▶傷病者発生時の救急対応に関するもので、施設利用者及び職員自身の健康・安全の確保や初期対応に係る意識向上を図る機会になりました。またこのほか、施設利用者の傷病者発生時における事例ごとの対応要領についても意見交換が行われました。

なお、研修会終了後に、「双方の資源・機能を活かし、感染症・傷病者発生時の協力・医療研修、環境教育、防災教育に関し、地域社会の発展に寄与する。」ことを目的に、両施設間で連携協力に関する協定が締結されました。



日本医療機能評価機構による 病院機能評価の認定更新

令和4年9月14日（水）・15日（木）に、日本医療機能評価機構の認定更新に係る機能評価審査を受審しました。その結果、令和4年12月に認定証の交付を受けました。

医療の質と安全を維持向上させるため、今後も継続的な改善活動に取り組むこととしています。



診療予約・変更・お問い合わせ

- 予約や変更等についてのお問い合わせ

外来予約センター ☎ 0967-34-0319
(平日 8:30~17:15)

- その他、診療や連携に関する各種お問い合わせや相談

地域医療連携室 ☎ 0967-34-0463



阿蘇医療センター

〒869-2225 熊本県阿蘇市黒川 1266
TEL 0967-34-0311 (代表) FAX 0967-34-2273
<https://www.aso-mc.jp>



スマートフォン等にてバーコード読み取りでホームページ閲覧ができます